

⑤素材作り

グループ

【現状】

- ・学部ごとに伝え方の文言が違う。
- ・教員の言葉かけの仕方が違う。
- ・イラストが統一されていない。
- ・先生ごとに約束ごとのカードを作っていて時間がもったいない。
- ・特別支援学校の経験がないと、指導のポイントをおさえづらい。

子どもが分かりやすい視覚支援を作りたい!
(プール、学校生活マナー、歩行、食事など)

研究

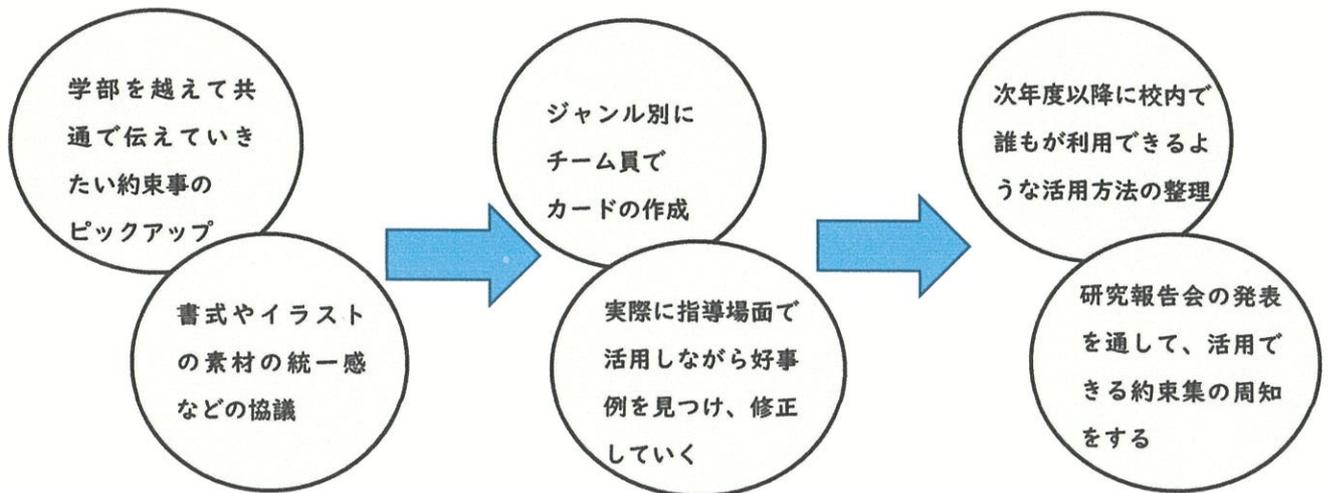
【ゴール】

- 食事、進路学習、人とのかかわり、歩行、学校生活、プールの約束カードを作った。
- 作成したカードを指導場面で実際に活用した。

【チームでの計画】

【テーマについては話し合いをした際に上がった意見】

- 小⇒中⇒高と学部が進んでいく時、学年が変わるたびに約束事の提示方法が変わる。せっかく同じ学校にいるのもったいない。
- どこの学部でも同じような約束事があるのに共通のツールで伝えられたら良い。
- 特別支援学校での勤務が初めての教員も増えてきた。指導のポイントをつかむ意味でも約束集は良い資料になるのではないか。



【カードの様式】

- ① Word の A4 用紙(横向き)に統一した。
- ② イラストはフリー素材(イラストや)を活用した。
- ③ 文字はすべて「UD デジタル教科書体 NB」で入力した。
- ④ 文は簡潔で分かりやすい言葉で作成した。
- ⑤ 学部の実態に応じて文言を変更できるように、ワードのデータのまま PDF に変換せずに残す。



【指導場面で活用してよかった事例】

指導場面

給食で器を持って食べられるように促す支援



カードを机に置くことで言葉かけを繰り返さなくても、カードに注目してもらうだけで器を持つことができた！

指導場面

洗い残しのない手洗いができるように促す支援



手洗いの手順と洗う部位をカードで示すことで、絵を見ながら同じ部位を洗うことができた！

指導場面

校内実習で、工作中的の約束を忘れてしまっているときに思い出せるように促す支援

報告に行くことを忘れてしまっていた時にも、机上のカードを見て行動することができる場面が増えた！

指導場面

生徒が歩行で手をつなぐ約束を忘れているときに促す支援



カードを示すことで事前にした約束を思い出し、安全に歩行することができた。

【次年度に向けて】

- 作成したデータをかきおさんの勉強部屋へデータを移し、次年度以降に活用できるようにする。
- データの作成をしたことを、研究報告会や職員会議等で周知していく。

【現状】

- ・クラスルームが普及していない。
- ・毎回iPadを有線でつないでいる
(iPadを子どもがさわる)

みんなに便利なクラスルームの部屋を作りたい!

ex.朝の運動(リトミック、体操、ダンス)

教科ごとのはじまりの歌、毎月の歌、行事など

研究

【ゴール】

- ・学校全体のクラスルーム「ジョンの部屋」を作成した。
- ・クラスルームを使って授業を行った。
- ・クラスルームの使い方の資料を作成した。



1.成果

(1) 学校全体のクラスルーム「ジョンの部屋」の作成

みんなで使える便利なクラスルームを作るという目的のもと作成した。クラスルーム内では各学部が”朝のうんどう”で使う動画の共有が行われたり 20 周年プロジェクトに向けた様々な資料の配付が行われたりした。



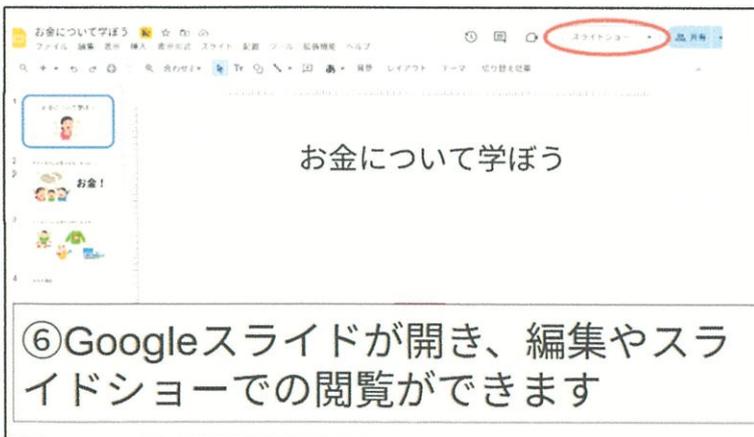
ジョンの部屋 TOP



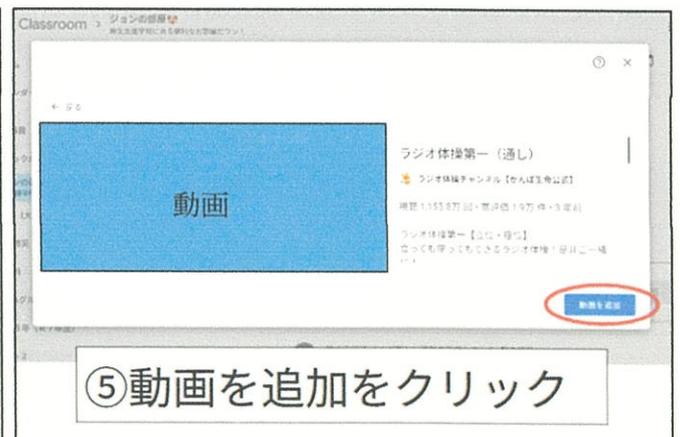
20 周年記念ファッションショー用データの配付

(2) クラスルームの使い方の資料の作成

クラスルームを初めて使う人が困らないように「①クラスルームへの入り方」「②動画のリンク」「③動画の視聴」「④スライドを映す」といった頻繁に使う機能について写真付きでスライドにまとめた。資料は上述した「ジョンの部屋」で共有されている。



⑥Googleスライドが開き、編集やスライドショーでの閲覧ができます



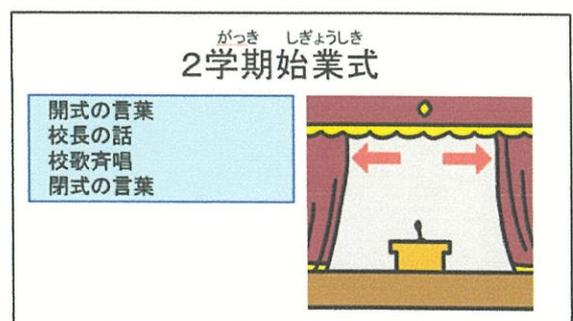
⑤動画を追加をクリック

各資料より抜粋

(3) 儀式や行事における google meet の活用

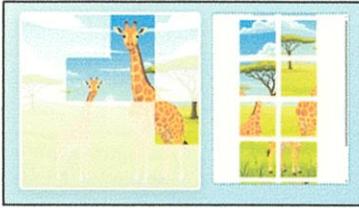
体育館で実施予定だった始業式が諸事情で教室実施になり、急遽 google meet を活用して行った。

校歌がすでに投稿されているので、次回からはそれを活用することも可能である。



(4) クラスルームを使った授業

a) B 小学部での授業実践例

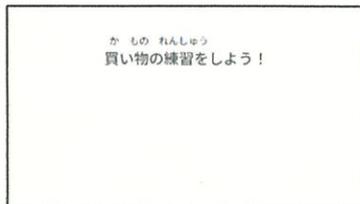


B小2年のことば・かず(グループ分け)の時間にイラストのパズルを行った。クラスルーム活用前は、イラストをポスター印刷し使用していたが、この研究で知ったクラスルームの導入と、今年度から派遣されているICT支援員からのアドバイスで、大型黒板で操作するパズル作成を行った。

おんがくでは、大型黒板を触ると音が出る仕組みにして、きらきら星♪を練習した。児童もクラスルームの使い方を覚えてきて、☆柿祭のステージ発表につなげることができた。



b) B 中学部での授業実践例



B中1年の生活単元では、スライドを活用して毎時間、授業を行った。買い物学習の単元では、前半はプレイスペースで3クラス合同の授業を行い、スライドを使用し、授業の流れを説明した。後半は各クラスで同じスライドを確認しながら、買い物練習に取り組むことができた。

2. 今後に向けて

研究を進めていく中でクラスルームの活用について、活用のメリットとデメリットを整理することができた。

(1) メリット(実践のなかで活用して良かった点)

- ・アカウントがあればどこでもログインできる。
- ・タブレットは有線の都合等で映していたものが途切れていたが、途切れない。
- ・タブレットに入れているものはいずれ消されるので蓄積することができる。
- ・操作する上で困ったことはICT支援員にアドバイスを貰ったり、手伝ってもらったりすることができる。
- ・MTが不在でもクラスルームから資料を取得できる。
- ・全体授業を電子黒板で進められ、従来のプリント学習より資料を削減できる。

(2) デメリット(対策を要する課題点)と今後の方向性

- ・電子黒板にクラスルームを映すことが魅力的過ぎて児童・生徒が触りたがるので困っている(子どもが触るのを防ぐにはiPadの方が良い)。
- 授業で使う物という認識がまだ希薄である。授業で使う機会を増やして、児童・生徒にとって授業で使うことが当たり前の物になっていくと良い。
- ・アカウントを取得しなくてはならない。
- アカウントは各職員に既に割り当てられている。研修等を通じ、アカウントの取得(+有効化)を行えると良い。
- ・クラスルームを開くことや操作方法を覚えることに消極的な人が多い。

→情報専任や情報の分掌と連携して研修を催せると良い。また、実践を積み重ねていき、指導場面においてクラスルームが児童・生徒及び教員にとって有益であることが伝播していくと良い。

今後は授業での実践を積み重ねていながら課題の解決に取り組み、より有効なクラスルームの活用へつなげていきたい。

【現状】

- ・サインを知っている職員、知らない職員がいる。
- ・学部だけではなく、学校全体や小低、小高とサインがバラバラ。

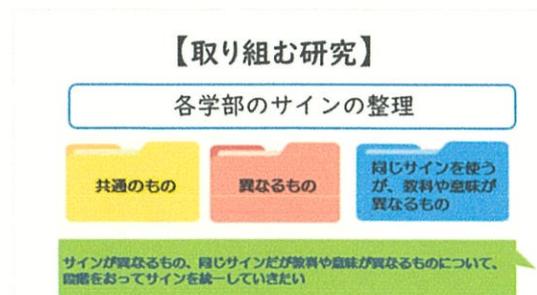
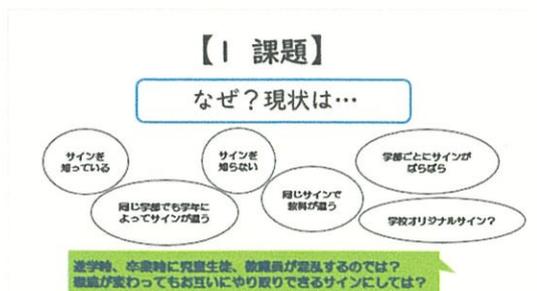
あいさつや教科のサインを全校で統一したい!

研究

【ゴール】

- *実際に各学部で使われているサインの確認
- *サインを「共通のもの」「異なるもの」「同じサインで教科や意味が変わるもの」に分類
- *すべてのサインを小1から高3まで、一気に統一するのではなく、サインによっては、動作のしやすさやわかりやすさを踏まえて、段階的に統一していきたい。

●課題及び、研究の取り組み方



【1 課題】

左記のような理由から、本研究の目標を「学部や環境が変わっても、共通で使えるサインにしたい」という点と、「学部外の教職員にも周知して活用してもらいたい」という2点におき、取り組んできた。

【取り組む研究】

各学部のサインを整理していく中で、「共通のもの」以外に「異なるもの」と「同じサインを使うが教科や意味が異なるもの」が混在していることが明らかとなった。意見交換を続ける中で、それぞれ別物として認識・活用されているサインを、グラデーションで段階を踏んで、徐々に移行し、統一していくのがよいのではないかというところに至った。

●研究の経過と成果

【研究の経過】

- 1 各学部のサインの拾い出し
→共通のもの、異なるもの、サインは同じだが、意味が異なるもの
- 2 共通サインの選択
→どのサインを選択するのがよいか、将来を見据えて学校オリジナルではなく、他者に伝わるサインがよい
- 3 サインを移行していく過程の検討
→児童生徒の発達段階（粗大運動、微細運動）を考慮し、段階的に共通サインに近づけていく
- 4 サイン写真・動画・移行過程の写真撮影、まとめ
写真や動画の共有など、全校で運用できるシステムづくり

- 【研究の経過】**
- 1 各学部で使われているサインで、共通のもの、異なるもの、サインは同じだが意味が異なるサインの拾い出しを行った。
 - 2 将来を見据えて学校オリジナルではなく、他者に伝わる共通のサインの選択を行った。
 - 3 児童生徒の発達段階に応じてグラデーションで段階を踏んでサインの統一をはかっていく。
 - 4 サインの写真や動画、移行過程の写真撮影を行い、写真や動画の共有など、全校で運用できるシステムづくりを検討してきた。

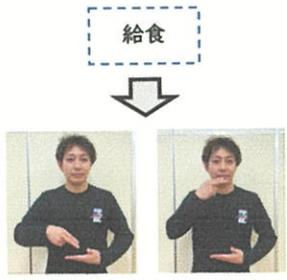
【取り組みと成果】



【取り組みと成果】

給食のサインにおいて、小学部と中学部・高等部では異なるサインが使われていた。サインを統一していくにあたり、共通のサイン動きを検討した。

【取り組みと成果】 共通サインの選択



【取り組みと成果】
給食のサインにおいて、小学部では児童の発達段階を踏まえ、動きの少ないもの、片手でできるものを使用している。中学部、高等部では、両手を使った動作になっている。高等部では給食のサインはあまり使用されていないことも確認することができた。
小学部の中～高学年あたりを目安に、中学部や高等部が使用しているサインに近づけた動きを段階的に取り入れ移行していく。

【取り組みと成果】 サインの拾い出し

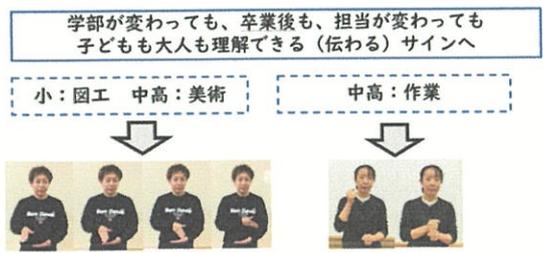


【取り組みと成果】
小学部の図工と中学部・高等部の美術は、教科としては同じものであるが、サインが異なっている。小学部は作業している動作、中高は絵を描いている動作を表したサインを使用している。
また、小学部の図工のサインが中学部になると作業のサインとなっている。小学部から中学部への進学段階で、混乱が生じるのではないかという意見もある。

【取り組みと成果】 サインの拾い出し

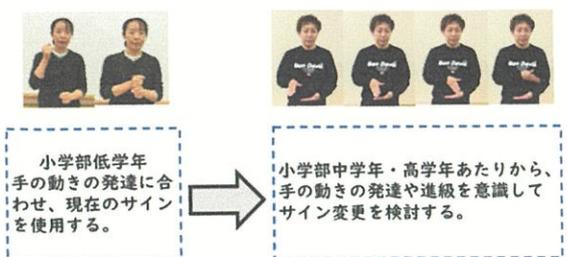


【取り組みと成果】 共通サインの選択



【取り組みと成果】
小学部の図工と中学部・高等部の美術を共通のサインとする。中学部・高等部の作業のサインは共通したものである。どちらのサインも卒業後や担当が変わっても多くの人理解できるものであると考えられる。

【取り組みと成果】 共通サインへの移行: 図工・美術



【取り組みと成果】
小学部低学年では、片手でできるものや動きが単純なものなど児童の発達に合わせたサインを使用している。
小学部の中～高学年を目安に中学部・高等部のサインに近づけた動きを取り入れるようにしていく。

【今後の取り組み】

どの学部に配属された場合でも、進学時、卒業後など環境が変わっても多くの人に伝わるよう意識し、教科サインを使用する。児童生徒の発達段階を踏まえつつ、タイミングを大切に、児童生徒が混乱しないようサイン移行を行う。

【現状】

- ・校外周辺にどんな公園（自販機等）があるか知りたい。
- ・公園までのルートを知りたい。 ・交通量はどのくらいか。
- ・公園の入り口はいくつか。 ・トイレ、手洗い場はあるか。
- ・歩行や買い物などの担当になった時、情報がわからず困る。
- ・坂や階段の有無がわかると良い。

校外周辺マップを作りたい！



研究

【ゴール】

Google My Mapを活用し、学校周辺にある「お店」「公園」「自動販売機」「注意地点」のジャンル分け(レイヤ)をしてポイント付けと詳細写真の添付をし、校外周辺のマップを作成することができた。



Ⅰ 成果

(Ⅰ) Google My Mapを活用した校外周辺マップの作成

- ・学校周辺のことをあまり知らない教員でも、安全に校外学習の計画を立てられるよう、校外周辺のマップを作るということを目的に話し合いを重ねた。
- ・マップに必要な内容の精査をしていく中で、今後も情報が増えていくと考えたときに、アナログよりもデジタルでの蓄積の方が良いのではないかという考えに至った。
- ・アカウントが児童生徒、全教職員に配付されているGoogleを使用して、取り組むことを決め、本校のICT支援員の助言もいただきながら、「Google My Map」を活用して校外周辺マップの作成を進めた。
- ・作成にあたって、以下のようにルールを決め、より見やすく使いやすいマップを目指した。
 - ルール①：ジャンルごとにマーカーの色を変える (ex.駅は赤色、公園は水色など)
 - ルール②：各場所の詳細にはできるだけ写真を入れ込む



マーカーをクリックすると
説明や写真が出てくる

場所の写真



※実際はGoole Map上で操作を行う

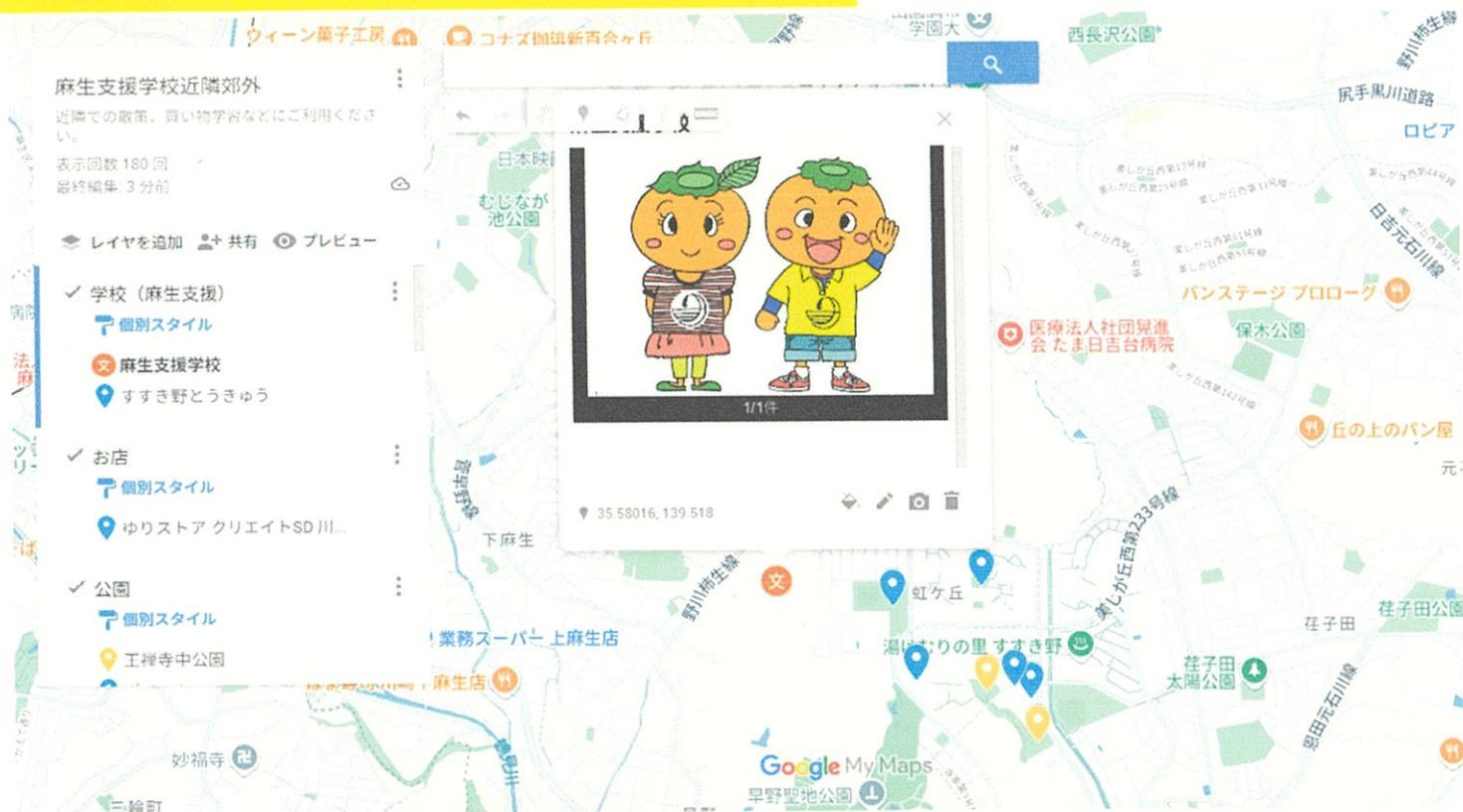
(2) Google My Mapの使い方の資料の作成

- ・「Google My Map」を初めて使う人が困らないように「麻生支援学校近隣郊外のGoogle My Mapを見るために」というイラスト付きの説明書を校内の教員向けに作成した。研究報告会や年度初めの職員会議等で周知していく。

校外周辺マップ作成にあたり…



マーカーの色は
各ジャンルごとに

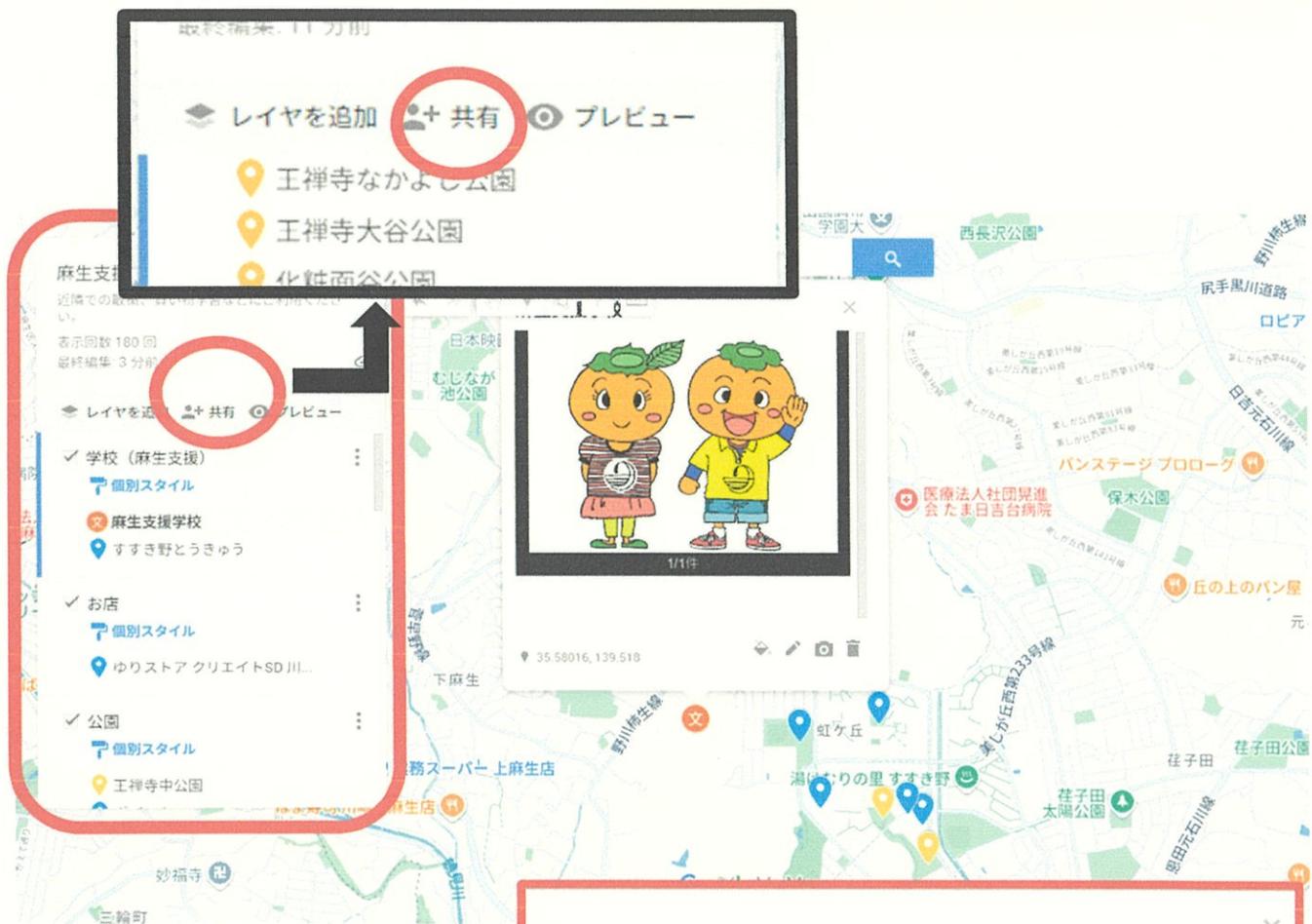


マーカーをクリックすると
説明や写真が出てくる



麻生支援学校近隣郊外の Google My Mapを見るために

① Google My Mapの
URLを共有してもらおう



※このリンクに
チェックを入れ
コピーもしくは
ドライブで共有

